

GNU bash 脆弱性(CVE-2014-6271 等)への攻撃に利用される可能性のある製品一覧

2015/3/27

※本表に記載のない製品については、基本的に CVE-2014-6271/7169/7186/7187/6277/6278 の攻撃に利用されることはございませんが、精査の結果影響有ることが判明した場合は、本表を随時更新していきます。

製品名	利用される可能性	対応	備考
PRIMEQUEST 2000 シリーズ	有り	対応版数 : BA14102 以降 公開時期 : 2014 年 11 月	2014/11/27 対応版数、公開時期変更 2014/10/21 補足説明、暫定対策追記 2014/10/14 対応追記
PRIMEQUEST 1000 シリーズ	有り	対応版数 : SA14101/SB14101 以降 公開時期 : 2014 年 11 月	2014/11/27 公開時期変更 2014/10/21 補足説明、暫定対策追記 2014/10/14 対応追記 2015/3/27 公開時期訂正
デジタル KVM スイッチ(8 ポート/16 ポート/32 ポート) (PY-KVAD08/16/32)	有り	ファームウェア 1.20.24.23709 で対応 公開時期 : 2015 年 2 月	2015/3/27 対応版数、公開時期変更
アナログ KVM スイッチ(8 ポート/16 ポート) (PY-KVAA08/16)	有り	ファームウェア改版で対応予定 公開時期 : 2015 年 4 月予定	2014/11/27 調査結果反映 2015/3/27 公開時期変更
ServerView Agents for Linux	無し	不要	2014/10/14 調査結果反映
PrimeCollect for Linux	無し	不要	2014/10/14 調査結果反映

➤ PRIMEQUEST 2000 シリーズ/PRIMEQUEST 1000 シリーズの補足説明および暫定対策

■ 補足説明

MMB CLI にログインされた後、任意のコードが実行されると以下の影響を受ける恐れがあります。

- ・ 情報の搾取
- ・ ファイルの作成、編集、削除
- ・ 過負荷によるパフォーマンス低下

■ 暫定対策

ファームウェアを適用するまでの間、MMB の telnet/ssh 機能を disable 設定にすることで回避できます。暫定処置により、telnet/ssh 機能が disable になっている場合、保守作業が実施できない場合があります。その場合は、保守作業が完了するまで enable にしていただくよう、システム管理者に依頼してください。